

第74回

YUSEN LOGISTICS VIETNAM CO.,LTD.

●事業内容
総合物流サービス

●Yusen Logistics Vietnam Co.,Ltd.
Hai Phong Logistics Center
Lot CN3.3C, Dinh Vu Industrial Zone, Dong Hai 2 Ward, Hai An District, Hai Phong

●日本本社
東京都港区芝公園2丁目11番1号 住友不動産芝公園タワー

●ホームページ
<http://www.yusen-logistics.com/>

郵船ロジスティクスは、日本郵船グループの中核を担い、貨物の集配、保管、通関手続きなどを行い、複合一貫輸送サービスを提供するフレイト・フォワードラーとして世界規模で事業を展開するグローバルロジスティクス企業です。

ベトナムでは、2004年に「郵船航空サービス ベトナム」として進出、後に「郵船ロジスティクスインターナショナル ベトナム(YL-IV社)」に社名変更し、2014年にベトナムで海上貨物輸送とロジスティクスを主力事業とする「郵船ロジスティクスソリューションズ ベトナム(YL-SV社)」と統合し、「郵船ロジスティクス ベトナム」として、総合物流サービスを展開しています。今回は、ハイフォン市のディンヴー工業団地内に拠点を構え、郵船ロジスティクス ベトナムのハイフォンを統括する山中取締役にお話を伺ってきました。



○ベトナム進出の経緯を教えてください。

元々、郵船航空サービスとして1996年からホーチミン市に駐在員事務所を設置して活動を開始しておりました。その後、2004年にベトナム地場企業との合弁で航空輸送サービス事業を主力とする「郵船航空サービスベトナム」(YL-IV社の前身)を設立し、2006年には海上貨物の輸送事業と倉庫事業を主力とする「NYKロジスティクスベトナム」(YL-SV社の前身)を地場企業との合弁で設立しております。2014年、それぞれの会社を事業統合し、現在の「郵船ロジスティクス ベトナム」を発足しました。郵船ロジスティクス・ハイフォンロジスティクスセンターは、2014年11月に開設されました。なお、外資規制の残るベトナム国内の内陸輸送事業については、「郵船ロジスティクス・トランスポーターション・ベトナム」(YL-TV社)という別会社を立ち上げ事業を行っております。

○業務内容を教えてください。

現在ベトナム国内にはハノイ、バクニン、ハイフォン、ホーチミン、ダナンの5つの拠点を中心に大小20のオフィスがあり、航空及び海上フォワーディング並びに倉庫及び国内陸上輸送を中心とした事業を展開しています。2014年11月にオープンしたハイフォンの拠点となるハイフォンロジスティクスセンターでは、フォワーディング、輸出入通関、倉庫保管、トラック輸送に加え、コンテナ・デポ事業を行っています。フォワーディングとは、国内外を問わず移動する貨物を、様々な輸送手段を利用して集荷から配達までを一貫して行う輸送サービスです。利用貨物運送事業とも言います。

当社は実際には航空機や船舶を自社で保有していませんが、それらを保有する事業者を利用し、お客様からお預かりした貨物を国内外の指定された場所へ、最適な輸送ルー

トでお届けするための業務プロセスをワンストップでご提供しています。

コンテナ・デポ事業とは、船会社が保有する空コンテナを船会社からの委託を受け当社の敷地内で保管・管理・メンテナンスする事業です。ディンヴー工業団地に隣接するハイフォン港は、河川港で敷地が狭いため、空コンテナの多くは港湾ターミナルの外に置かざるを得ない状況になっています。当社の拠点では、ハイフォン港の後背地という立地的なメリットを活かし、コンテナ・デポ事業を行っています。

○ディンヴー工業団地を選んだ理由は？

大きく三つのメリットがありました。一つ目は、やはりベトナム北部地域の玄関口であるハイフォン港が目前にあるので、物流施設を持つには理想的な場所であり、また、今後増大するであろう物量需要に対応す



運行管理センター



コンテナ・デポ



整備工場

べく2017年開港に向けて建設中のラックフェン国際港にもアクセスが良い点です。二つ目は、ハノイ市とハイフォン市を結ぶ高速道路の整備が予定されていたこと(2015年12月に全線開通)と、カットピ空港の国際線化が予定されているなどの交通の要衝となる点、三つ目にハイフォン市は、日系企業をはじめとした外国企業の投資が増加している点が挙げられます。

○ハイフォンロジスティクスセンターの倉庫について

一般倉庫(7,200㎡)、保税倉庫(2,400㎡)、CFS倉庫(2,400㎡)の3つ機能を備えたグローバルスタンダードを満たすハイフォン地区唯一の多機能倉庫です。

一般倉庫は、主に輸出用の完成品の保管場所としてご利用いただいています。

保税倉庫は、バイヤーズコンソリデーション(買い付け物流)の輸出用貨物コンテナ化のための一時保管や、海外から輸入した部品を海外のお客様名義でストックし、ベトナム国内のお取引先様からのオーダーに応じて補給するVMI(VENDOR MANAGED INVENTORY)サービスなど主に「非居住者在庫」としてご利用いただいています。

CFS倉庫は、1コンテナに満たない少量の貨物をお持ちのお客様の輸出貨物を集め1コンテナに集約して出荷したり、逆に海外から混載されて入ってくる貨物を仕分けをする倉庫として機能しています。

これら3つの機能を利用し、様々なニーズにお応えしながら、サプライチェーンの一員としてお客様の物流改善のお手伝いをしています。

その他には、敷地内にトラックの専用メンテナンス施設を、コンテナ・デポにはコンテナのクリーニング・修理を行う設備を完備し、品質の良いサービス、コンテナをお客様へ提供できるような体制を取っています。

○トラックは何台保有されているのでしょうか？

ベトナム全体で180台所有しています。うちコンテナ運搬用のトレーラーヘッドが121台で、全ての車両を日本から輸入しています。日本車の良い点は、メンテナンス性、始動性、燃費がよく、故障が少ない点です。コンテナが載るシャーシは140台保有しています。現在コンベンショナルトラックは21台となっていますが、近年は内需拡大傾向にあるため、今後はリテールビジネスをターゲットとしてトラックを増やしていき、南北間の内陸輸送にも力を入れていきたいと考えています。

○食品の輸出入に関してはいかがでしょうか

北部は南部に比べてまだ需要が少なく、コ

ールドチェーンに必要なインフラの整備が遅れている状況です。しかし、購買力上昇とともに食品などの温度管理が必要な貨物量は増えていくことは間違いなく、今後必ず需要が高まっていくことが予想され、そのための施設の整備などは当然視野に入れていきます。

○ベトナム人スタッフについてどのように考えていますか？また、ベトナムで苦労したお話などをお聞かせください。

ハイフォンロジスティクスセンターには、現在211名のスタッフが働いています。男性が約8割、女性2割程度となっています。やはり倉庫スタッフやトラックドライバーが多いため男性の比率が高くなっていますが、今後は可能な範囲で女性スタッフを増やしていきたいと考えています。

ベトナム人、特に男性は安全意識、危機意識が全体的に乏しく、意識の改善・教育には苦労しています。新倉庫が稼働する直前でしたが、複数の男性社員が高所作業をするためそのうちの1人がパレットの上に乗る、それをフォークリフトで持ち上げていました。命綱など付けず、ヘルメットも着用していませんでした。すぐに止めさせてましたが一歩間違えば死亡事故に繋がるケースです。また別の現場では、壊れたコンセントの部品を手直にあつた何かを代用して修理し、そのまま使用しようとしていた社員がいたと聞きました。

手先が器用、仕事が早いのは良いことですが、一方それが火災の原因になり得ることが理解できていません。結果的に問題が起きてしまえば本末転倒ですし、考え方のギャップだけで済ますことのできない事例です。当社では、サービスの品質向上と業務の安全遂行を管理するためにハイフォンに日本人を1名常駐させています。ミスのない、事故のない現場を目指して定期的な監査の実施、様々な講習会の開催を通じて安全教育には特に力を入れています。

○長く勤めてもらうため、どのような工夫をされていますか？

北部の社員旅行は毎年5、6月頃に2グループに分けて必ず行くようにしています。一昨年は、バスをチャーターして二泊三日(車中一泊)でピン市に行き、昨年は一泊二日でベトナム北部のタインホア省にあるサムソビーチへ行きました。ベトナム人は、社員旅行を非常に楽しみにしているので長く勤めてもらうためにはこのようなイベントを定期的に行うことは非常に重要だと感じています。また、ハイフォンロジスティクスセンターには食堂を設置してスタッフやトラックドライバーが食事を摂れるように配慮するなど、今後は職場の環境整備を積極的に行っていきたいと考えています。

○今後の展開について

ベトナム全体としては、中期的な視野に立ちTPPやFTAも考慮しながら、これからの成長産業へのアプローチを強化していきたいと考えています。

産業別では、食品、リテール、衣料品分野の取扱いを拡大するための施策とその準備を進めていきます。

輸送サービスでは、ベトナムと周辺国を結ぶ「クロスボーダー輸送」の需要は今後高まると考えられ、クロスボーダー輸送事業を拡大していきたいと考えています。

また、日系物流業者として日系企業との取引が中心になっていますが、非日系企業との取引も今後増やしていければと考えています。

一方、更なる業容拡大においては、当然のことながらサービス品質の向上とこれからの担う人材の育成が必須と考えており、中長期的なプログラムを検討中です。

ハイフォンについて言いますと、今後の国際物流の増加を見込んで倉庫の増床をしたいと考えています。

ありがとうございました。



ハイフォン ロジスティクスセンター